

# 農村環境改善センターから歩く会

23

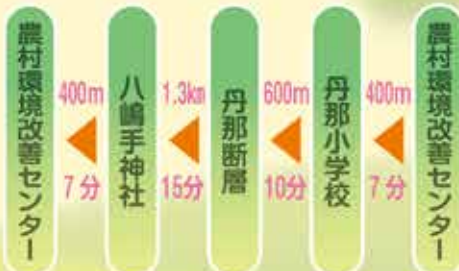
平坦な盆地の中の道です。



牧場の池



オラッチェ



農村環境改善センターから歩く会

距離：約 3 km  
所要時間：40分

# 農村環境改善センターから歩く会

23

## ● 函南町農村環境改善センター

函南町農村環境改善センターは、農業及び農村の健全な発展を促し、農業の経営や農家の生活の改善及び合理化を図るとともに、農村居住者の健康増進や農村の環境整備を組織的に推進するため、コミュニティ活動や文化活動、社会教育活動の拠点として地域の皆様に利用していただき、地域の活性化と産業振興を図ることを目的に設置しました。

- ・開館時間 ・午前 8 時30分～午後 9 時30分まで
- ・休館日 ・毎週月曜日（国民の祝日が月曜日の場合は翌日）  
・年末年始（12月29日～翌年1月3日まで）
- ・使用申し込み・使用する3ヶ月前の月の初日から使用する日の前日まで  
・申込み受付は午前 8 時30分～午後 5 時まで（休館日を除く）  
・使用許可申請書に所定の事項を記入し提出してください。

## ● 丹那断層（国指定特別天然記念物）

昭和5年（1930年）11月26日午前4時02分に発生した北伊豆地震の際、断層のズレの跡をよく示す場所として昭和10年に国の天然記念物に指定されました。

現在、丹那断層公園として整備され、休憩所内のパネル展示、地下観察室や、実際にあった塵捨て場と水路・石垣がずれたままの姿で残され、箱根山から修善寺までの断層線が一目でわかるジオラマなどが展示されています。又、伊豆半島ジオパークのジオサイトとして火雷神社と共に注目されています。

## ● 酪農王国オラッチェ

丹那の酪農の歴史は、明治14年当時丹那の名主でありました川口秋平氏が丹那は牧畜に適していることに着目して始まりました。そして長い歳月をかけながら酪農地帯として発展をしてきました。オラッチェはこの酪農の歴史を受け継ぎ、酪農と農業のすばらしさを発信しようと作られ、動物とのふれあい広場で遊んだり、農事体験や手作り体験などを行う家族連れなどで賑わっています。



# 畑公民館から歩く会

24

東海道新幹線

東海道本線

至オラッチェ



オラッチェ内  
「丹那盆地ウォーキングマップ」

皇産霊神社



皇産霊神社の石祠

登り坂が多いので  
ダイエットによい  
熱函道路を一部通  
りますので気をつ  
けて一列で。

富士山ビュー

登り坂

● 長光寺

● 畑公民館

● JA 三島函南  
畑支店

丹那断層



長光寺前の道を登って  
富士山絶景スポットを探そう

● 食処  
きみち



丹那断層

牧場の池



長光寺昭和書碑林

畑公民館	400m	丹那断層	1.3km	食処きみち	800m	長光寺	400m	畑公民館
	15分		15分		15分		15分	

畑公民館から歩く会

距離：約 3 km

所要時間：1 時間

# 畑公民館から歩く会

24

- **皇産霊神社**

皇産霊神社の大杉は静岡県神社庁より御神木として指定されています。

- **長光寺 昭和書碑林**

曹洞宗のお寺です。ウォーキングの途中、門前の道を登っていくと霧に包まれた幻想的な丹那盆地を見下ろせることがあります。

境内には昭和書碑林があり、著明な7人の書家の書を彫った石碑が並んでいます。



# 軽井沢・田代公民館から歩く会

25



## 軽井沢・田代公民館から歩く会

距離：約7km (8,900歩)  
所要時間：約1.5時間

# 軽井沢・田代公民館から歩く会

25

## ●雷電神社（軽井沢）

函南町史を調べてみると古い時代には雷電権現と呼ばれた神社が3社あり、大土肥の雷電神社、田代の火雷神社、そして田代の雷電神社がそれぞれあり、いずれも1873年（明治6年）に改称され現在の名となっているとのこと。

これらの神社はいずれも伊豆山権現（伊豆山神社 熱海市）に関係があるようで、田代の火雷神社についての口伝には、何百年かの昔、伊豆山の大神をうつして祀ったと言われていたり、大土肥の地名が、箱根山の登り口で大土肥坂にさしかかり、大きな鳥居があって、先ずこの社に参拝して旅の安全を祈って出かけたことから、大鳥居が大土肥となったと一説に言われております。

また軽井沢の雷電神社も伊豆山の雷電神社の神をうつして祀った神社であろうと記されていることからや異説には軽井沢は田代より分離した地区であって、中古の頃になって軽井沢に分霊して祀ったとも言われていることなどからも伊豆山神社に深い関わりを持つ神社であったと考えられます。

県道を挟んだ反対側には町指定文化財の駒形堂があります。

承平6年（939年）平将門が関東へ下向の際、乗馬の病気をこのお堂の観音に祈り、治癒してもらったので、この地に馬頭観音を安置しました。その後、源頼朝が軽井沢を通り過ぎる際、この駒形堂にお参りしたとき、乗馬の磨墨（するすみ）がしきりにいなくなかったので、家来が山中を狩りしたところ名馬「池月」を得ることができたとの伝説が残っています。本像を納める駒形堂は、現在泉龍寺の隣接地にありますが、もとは弦巻山の中腹にあったといわれています。

## ●双体道祖神（田代）

伊豆地方では珍しい双体の道祖神。享保二年（西暦1717年）酉十月の紀年銘及び田代村と刻まれています。函南町にはこの他に4基（桑原、丹那、軽井沢、畑）の双体道祖神があるが、本像の彫りが最も鮮明で紀年銘も唯一のもので、道祖神は疫病等の侵入を防ぐため、村の入り口に置かれたもので、伊豆地方では単体で丸彫りの「伊豆型」と呼ばれるものが一般的です。

## ●火雷（からい）神社の断層

国指定の丹那断層（畑）と同じ断層上のズレの跡。ここでは鳥居と階段の間に断層が走り、両者が地上の目印となって1 m余のズレが見て分かります。丹那断層とともに世界的にも大変著名な断層跡です。